

Road to 2050

2050年への、北越グループの挑戦

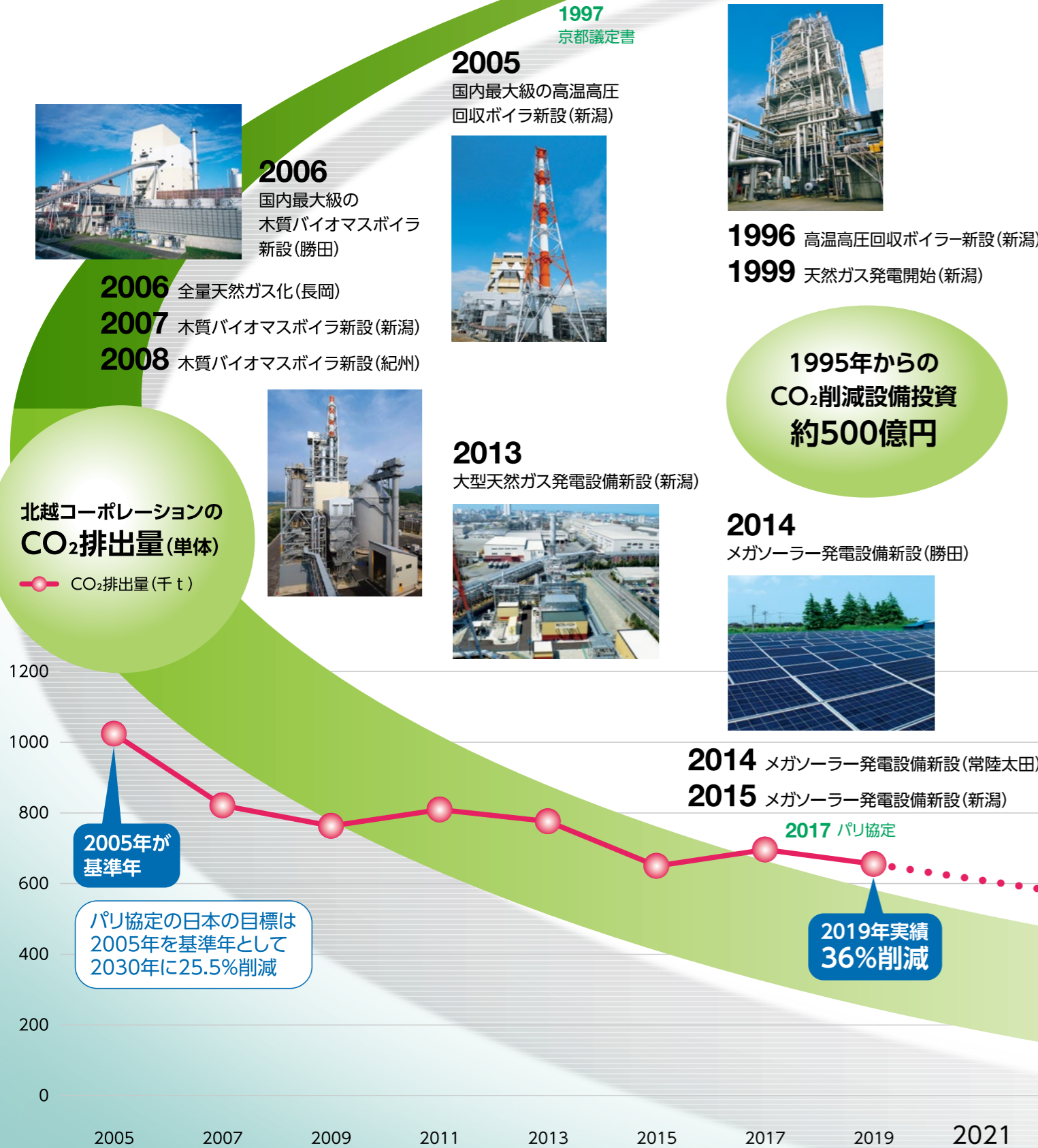
ZERO
CO₂
2050™

ZERO
CO₂
2050™

Road to 2050

—2050年までにCO₂排出量を実質ゼロへ—

私たちはこれまで、あらゆる環境負荷を最小限にする「ミニマムインパクト」に取り組んできました。今、これをさらに飛躍させ、2050年までにCO₂の排出量を実質ゼロにする「ZERO CO₂ 2050」を推進していきます。



北越コーポレーションのCO₂排出量(単体)

● CO₂排出量(千t)

1992 リオ地球サミット

1997 京都議定書

2005 国内最大級の高温高圧回収ボイラ新設(新潟)



2006 国内最大級の木質バイオマスボイラ新設(勝田)



2006 全量天然ガス化(長岡)
2007 木質バイオマスボイラ新設(新潟)
2008 木質バイオマスボイラ新設(紀州)



2013 大型天然ガス発電設備新設(新潟)



1995 天然ガス発電開始(市川)



1996 高温高圧回収ボイラ新設(新潟)
1999 天然ガス発電開始(新潟)

1995年からのCO₂削減設備投資約500億円

2014 メガソーラー発電設備新設(勝田)



2014 メガソーラー発電設備新設(常陸太田)
2015 メガソーラー発電設備新設(新潟)

2017 パリ協定

2019年実績 36%削減

2030年目標 56%削減

ZERO
CO₂
2050™

HOKUETSU
GROUP

「北越グループ ゼロCO₂ 2050」を策定

私たち北越グループは、バイオマスなどのCO₂ゼロ・エネルギーを積極的に活用し自然循環型素材である紙をつくっています。

現在では、CO₂ゼロ・エネルギー比率を業界トップレベルの70%まで高めることができました。

私たちは、人と自然が共生する社会の実現を目指し2050年までにCO₂排出実質ゼロに挑戦します。

全工場で積極的に推進する低CO₂・ゼロCO₂排出エネルギーへの転換



「黒液」はパルプを製造時に副産物として発生するバイオマス燃料です。新潟と紀州では専用の回収ボイラーで黒液を燃料として発電を行っています。



新潟、勝田、紀州では、家の解体材などから作ったバイオマス燃料＝「木質燃料」を用いる木質バイオマスボイラーで発電を行っています。



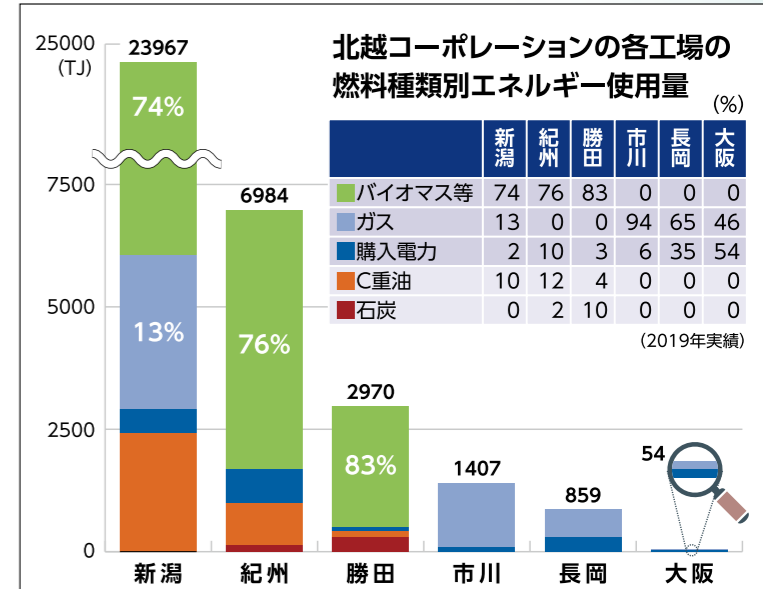
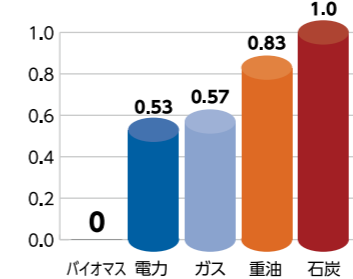
メガソーラー発電所の設置も進めています。地球温暖化防止のための自然エネルギーの拡大に貢献しています。



「ガス」はCO₂の発生が少ないクリーンな燃料です。都市型工場の市川からスタートし、現在では市川、長岡、大阪はガスと電気だけで工場を運転しています。

燃料のカロリーあたりのCO₂排出量

バイオマスはCO₂ゼロ、購入電力とガスはCO₂の少ないエネルギーです。



新潟・紀州・勝田はバイオマス燃料を主体とした工場です。いずれもバイオマス比率70%以上です。勝田は2030年より前にCO₂ゼロ工場を目指します。
市川・長岡・大阪のエネルギー源は天然ガスと都市ガスです。長岡は地元の長岡市で産出する天然ガスを使用しています。

まだまだ取り組みは続いています!

- バイオマスボイラーの新設や増強
 - 自家発電力の工場間託送の検討
 - パルプ製造工程(ロータリーキルン)での重油代替技術と設備の検討
 - ガス燃料の代替の必要性の検討
- その他、省エネや工程改善にも引き続き取り組んでいきます

ZERO CO₂

2050年
CO₂排出量
ゼロに挑戦

2050



北越コーポレーション株式会社

〒103-0021

東京都中央区日本橋本石町三丁目2番2号

TEL 03-3245-4500

FAX 03-3245-4511

www.hokuetsucorp.com